2024.3.10 北秋津キリスト教会　礼拝説教　浜田進
マタイの福音書 5 章 9 節 「平和をつくる者は幸いです」

■ 戦争がなければ平和なのか

ロシアのウクライナ侵攻から 2 年が経ちましたが今も続いています。イスラエルとガザとの紛争も継続中です。また、アジアにおいてはミャンマーの内戦、イエメンの内戦が今も続いています。さらにはアフリカのエチオピア、エリトリア、スーダンにおけるティグレ紛争も今なお進行中です。世界中で起こっている戦争、紛争で、兵士はもちろん、多くの民間人も犠牲となっています。

私たちは、世界で起こっている戦争が一日も早く終息してほしいと願います。しかし、戦争がなくなることを熱心に祈り求め、「戦争反対！」と主張する一方で、考え方の違いによって新たな分断や対立が生まれる。それが私たちの悲しい現実です。

また、戦争を止めるべきだと為政者を強く批判する一方で、私たちは職場や学校におけるいじめやハラスメント、家庭における夫婦喧嘩、親子喧嘩、兄弟喧嘩などをやめることができないという矛盾を抱えています。

多くの方は、**「平和とは戦争や争いのない状態」**を想像されるでしょう。確かに戦争は平和とは対極にある状態です。そして、かつて悲惨な戦争を経験した日本には、「もう二度と戦争はせず、平和を守ろう」と考える方が多いと思います。私もそう考えます。唯一の被爆国として、あのような悲惨な戦争はもう二度と繰り返してはなりません。しかし、聖書の語る「平和」とは、単に戦争や争いがない状態のことではないのです。

聖書で平和を意味するヘブル語はシャロームです。これは挨拶にも使われる言葉で、「神の平安がありますように」という意味も含みます。聖書によれば、神様が平和、平安、シャロームの源です。私たちの生活における祝福、繁栄、健康、平安といったあらゆる恵みは神によってもたらされるのです。

これまで何度も語ってきましたが、イエス様が言われる幸い（マカリオイ）は、**「神様の祝福を受け、その祝福のなかに置かれる幸い」**を意味します。ですから、真の幸いも、真の平和も、神様との関係抜きには考えられません。私たちの心が本当に満たされ、平安な状態になるには、神様との関係が正常でなければ実現しないのです。

たとえ、この世界に戦争がなくても、神様との正常な関係がなければ、私たちは真の平和の中に生きていない状態なのです。それは別の言い方をすれば、私たちと神様との間に敵意があるのです。そのような状態では、必ず人間の間に争いが生じ、戦争へと発展してしまうのです。

■ 平和をつくる者になるために

さて、今朝のイエス様のことばをもう一度、読んでみましょう。

マタイ 5:9　平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。

イエス様はここで、「平和を愛する者は幸いです」とおっしゃっていません。また、「平和を守る者、平和を維持する者は幸いです」とも言われず、「平和をつくる者は幸いです」と言われました。

とはいえ、平和を愛し、平和を守り、それを維持すること大切なことです。些細なことから争いを引き起こし、分断や対立を起こすようなことは慎むべきでしょう。

私たちの生きるこの時代と世界には、あちこちに戦争や争い、分裂や対立があり、今ある平和を守ることさえ困難です。今の世界は決して平和とは言い難いですが、これ以上、戦争や紛争が起きないように国々が対話をして、平和を維持することは非常に重要です。

さて、イエス様は**「平和の君」**と呼ばれる方です（イザヤ 9:6)。そして神様は、イスラエルの人々にみことばを送り、イエス様によって平和の福音を宣べ伝えられました（使徒 10:36)。そのイエス様が「平和をつくる者は幸いです」と言われるのです。つまり、平和とは積極的につくることができるのです。今朝は、どうすれば平和をつくる者（ピースメーカー）になれるのかをご一緒に見ていきたいと思います。

■ 神と和解し、神との平和を得る

積極的に平和をつくる者となるためには、まず私たちが神と和解していることが大切な土台となります。つまり、平和の源である神と和解し、この神との平和を与えられることが大前提となります。これなしに平和をつくろうとするのは、材料が何もないところから家を造るのと一緒で、不可能です。

神と和解する前の私たちの状態についてパウロはこのように語ります。

エペソ 2:1-3　さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

神と和解する前、すなわち神との平和をいただく前の私たちは、自分の罪の中で死んでいた者でした。また、私たちはその罪の中で悪魔・サタンに支配され、ひたすら自分の欲望に従って生き、神の怒りを受けなければならない者だったのです。

しかし、そんな私たちがどのようにして神と和解し、神との平和を持てるようになったのでしょうか。その答えは続くエペソ 2:4-5 に書いてある通りです。

しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

私たちが罪とその裁きから救われるのは神の豊かなあわれみ、恵みによるのです。
そして、私たちが神と和解し、神との平和を得るために、イエス様が私たちの身代わりとなって十字架で死んでくださったのです。

コロサイ 1:19-20 なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ、その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださったからです。

イエス様の十字架の血によって、私たちの罪は赦され、それゆえに私たちと神との間にあった敵意はなくなるのです。ですから、平和をつくる者となるためには、まず私たちが自分の罪を神の御前に告白し、イエス様の十字架による赦しをいただくことから始めなければなりません。

■ 自分を忘れ、神の栄光を求める

平和をつくる者、キリストにあるピースメーカーになるために大切なことの２つ目は、自分を忘れ、神の栄光を求めるということです。

私たちが経験する争い、けんか、戦争、紛争のすべての根っこにあるのは罪です。その罪とは自己中心であり、利己主義です。神との平和なしに、罪を抱えたままで熱心に平和運動をする人々がいます。神との和解、神との平和を持たない人々は、自分たちの考えこそ正義なんだ！という思いを持っています。そのため、自分たちの願う平和を邪魔する者があれば、それを排除し、憎むことさえあるでしょう。それでは平和をつくることはできません。

しかし、イエス様によって罪赦され、神との平和を持つ人は、もはや自分中のためではなく、神の栄光のために生きる新しい歩みを始めた者です。その人は地上においては、なおも自己中心的な思いを抱えることはあるでしょう。しかし、主のあわれみの中で、神の栄光のためになること、神様がほめたたえられるために何をなすべきかを考え、祈り求めるようになるのです。

キリストにあるピースメーカーとなるには、自分を忘れ、神の栄光を求める必要があります。人々から誤解され、中傷されても、まず神の国と神の義を求めることが大切です。私のメンツ、私の栄光、私の損得よりも、神の栄光が現わされることをひたすら求め、自分のことを忘れてしまう人。そういう人が平和をつくる者なのです。

■ 無益なことばを控える

平和をつくる者、キリストにあるピースメーカーになるために大切なこと、その３つ目は無益なことばを控えるということです。

ヤコブ 1:19-21 私の愛する兄弟たち、このことをわきまえていなさい。人はだれでも、聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありなさい。人の怒りは神の義を実現しないのです。ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

ヤコブの命じる言葉に反して、私たちは聞くのに遅く、語るのに早く、すぐ怒る者ではないでしょうか。私たちの語ることばは、人を励まし、慰め、勇気づけることもできます。しかし、一方で私たちのささいなつまらないことばが争いを引き起こすこともあります。「あんなことを言わなければよかった…」とことばで失敗をし、後悔したことがある人も多いでしょう。

難しいかもしれませんが、私たちは言葉を発する前に、それが人に害を与えるものかどうか考える必要があるでしょう。うわさ話、陰口、皮肉、嫌味、小言、無益なおしゃべりは争いに火をつける薪（たきぎ）になります。言いたくなる誘惑に打ち勝つためにも、みことばを心に受け入れましょう。キリストのことばが私たちのうちに豊かに住むようにしましょう（コロサイ 3:16)。

私たちの口から主への感謝と賛美が溢れますように。そして、主が与えて下さっているご家族、ご友人、職場の方、教会の兄弟姉妹に対して、いたわりの言葉、励ましのことば、慰めのことば、感謝のことば、愛のことばを語ることができますように。

■ 和解の行動を起こす（宣教への召しを受け取る）

平和をつくる者、キリストにあるピースメーカーになるために大切なこと、最後の４つ目は、和解の行動を起こすということです。

無益なことば、争いを助長するようなことばは控えるべきですが、沈黙したままでは平和をつくることはできません。私たちは終末の時代に生きる者たちです。そして、私たちは再臨されるイエス様を共に待ち望む者たちです。

この終末の時代には、平和を奪うサタンの働きはますます活発となり、今後も世界では戦争、紛争、対立、分断が増えていくでしょう。神様はそのような終末の時代に、私たちをこの日本に生かしておられるのです。神様は私たちをこの日本に遣わし、ここで平和をつくる使命を与えておられるのです。

まずは、私たちがいただいている神との和解、神との平和をこの地におられる方々もいただけるようにとりなし祈りましょう。そして、平和の福音を宣べ伝えましょう。

Ⅱコリント 5:17-20 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。これらのことはすべて、神から出ています。神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました。すなわち、神はキリストにあって、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わせず、和解のことばを私たちに委ねられました。こういうわけで、神が私たちを通して勧めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。

私たちは今やサタンの支配にはなく、神のご支配、すなわち神の国に生きる者とされました。古い私たちはイエス様とともに十字架で死に、今やイエス様の復活のいのちで生きる新しい者とされているのです。

そして神様は私たちクリスチャンに、和解のことばを委ねられたのです。それは、まだ神様に背を向けている人々を神様と和解させるためです。神様は私たちをキリストにかわる使節、アンバサダーとしてこの地に生きよと言われているのです。

私たちはこの神様からの召し、キリストの使節、キリストのアンバサダーとして、この地で生きよ！という召しをご自分の者として受け止めておられるでしょうか。

どうか私たち一人一人がこの神様からの召しを受け止めることができますように。そして、平和をつくる者とならせていただきましょう。この平和をつくる者の歩みは世の価値基準では平坦な道ではありません。困難があるでしょう。偏見、誤解、迫害をも経験するでしょう。しかし、その生きる道に真の幸いがあるとイエス様はおっしゃるのです。ですから、共にこの幸いに生きましょう。

パウロは迫害と困難の中にあったテサロニケの教会の人々にこう書き送りました。

Ⅱテサロニケ 3:16 どうか、平和の主ご自身が、どんな時にも、どんな場合にも、あなたがたに平和を与えてくださいますように。どうか、主があなたがたすべてとともにいてくださいますように。

主はどんな時にも、どんな場合にも私たちとともにおられます。そして、私たちは平和そのものであるイエス様によって平安のうちに歩むことができるのです。

私たちの身近な家庭や職場、地域の中には傷つき、破れてしまっているところがあるでしょう。しかし、主の平和をいただいた私たちは、そこに主にある平和をつくるようにと神様から遣わされているのです。簡単なことではありませんが、忍耐しつつ、祈りつつ、平和をつくる者、神の子として今週も歩んでいきましょう。